# 「〜てくれる」「〜てもらう」の使用条件について

## ——日本語母語話者と日本語学習者の用例を比較して——

朱炫姝（筑波大学大学院生）

要　旨

本稿は「〜てくれる」と「〜てもらう」の使用条件を明らかにするため、日本語母語話者と日本語学習者のコーパス・データを用い、言語使用の観点から検討した。使用条件には形式上の特徴、参与者間の関係、発話機能という 3 つの尺度を設け、総合的に把握した。その結果、日本語母語話者の使用において、「〜てくれる」は疑問要素文形式による「行為要求」の使用条件が顕著に見られ、「〜てもらう」では条件節+「嬉しい」形式による「行為要求」等が多く見られた。一方、日本語学習者の使用には一定のパターンが見られず、形式と発話機能の関係、参与者関係の不理解が誤用の要因であることを指摘した。

キーワード：「〜てくれる」、「〜てもらう」、形式上の特徴、参与者、発話機能

### 1. はじめに

授受補助動詞「〜てくれる」と「〜てもらう」は、同じ事柄を対称的に表現している（堀口、1987:59）。対称的というのは、両者の主格情報と与格情報を置き換えられるということである。つまり、構造論的に、「〜てくれる」は「X が Y に Z てくれる」と、「〜てもらう」は「Y が X に Z てもらう」との基本構造を持ち(久野、1987[1978]:152-163)、両者は「動作主 X が対象者 Y に向けて Z する」を意味する「X が Y に Z」という事柄を表すことが共通的である。ここで同じ事柄を表しているにもかかわらず、「〜てくれる」と「〜てもらう」を選択するにはどのような原理が働くかを考察することが本稿の論点となる。

(1) a.　私は田中さんに荷物を送ってもらいました。　（山本、2002:265）

　　b.　田中さんが｛私に/私の｝荷物を送ってくれました。　（(1a) を基に作例）

(2) a.　来月から君に経理をやってもらうよ。　（堀口、1987:60）

　　b.＊来月から君が経理をやってくれるよ。　（堀口、ibid.）

(1) のように、「田中さん」の「荷物を送る」行為が話し手である「私」に向けられた際、どちらでも適格である。しかし、(2a)「〜てもらう」は聞き手である「君」へ指示する行為要求として働くのに対して、(2b)「〜てくれる」ではそのような機能は働かない。つまり、両表現には、意味や使い方の差があまり見られない共通的な領域と、それぞれの特殊な使い方の領域が存在する。そこで、本稿では、「〜てくれる」「〜てもらう」を分析し、使用条件を明らかにすることを目的とする。

このようなことは日本語学習者にとって容易いことではないように思われる。次の例は『寺村誤用例集データベース』で誤用とされる例である。

(3) ＊実は、あたなは、去年、私からかしてもらった本と資料は今、試験と論文を書くために、その本と統計資料は私にとって急用ですから、はやくかえしてもらうのが欲しいです。　（寺村、1990;台湾人学習者の自由作文）

(3) では、読み手（聞き手）に「本と資料を返す」行為を依頼する場面で、「かえしてもらう」と「かえしてほしい」の構造と働きの不理解から生まれた誤用である。このような誤用は、「ーてくれる」「ーてもらう」の使用条件を習得することで正用に繋げられると考える。

したがって、本稿では次の3つのリサーチ・クエスチョンを立て、「ーてくれる」「ーてもらう」の使用条件を調査する。

[1]「ーてくれる」「ーてもらう」の使用条件の分析基準について模索する。

[2] 日本語母語話者の実際の言語使用を観察し、両表現の使用条件について分析する。

[3] 上記[1]の使用条件を用いて、日本語母語話者と日本語学習者の使用様相を比較し、学習者の習得における問題点を指摘する。

## 2. 先行研究の分析および問題点

「ーてくれる」と「ーてもらう」に関する先行研究には両表現の構造的な特徴や両表現の互換性についての研究と、習得研究における学習者の使用頻度に関する研究に二分される。まず、両表現の互換性に注目する研究には、堀口（1987）、熊田（2001）、山田（2002）、山本（2002）がある。堀口（1987）では、両表現の互換性について、時間軸に注目し、動作主の了解がある場合とない場合に分類して分析を行った。だが、実際の場面では動作主の了解を確認できる可能性が困難なケースがありうる。しかし、文の機能として依頼や意志の表明についての言及は有効であり、依頼や意志の表明のみならず発話機能全体を範囲として綿密に分析する必要があると考える。ここでいう発話機能についての詳細は第4章で述べるが、話し手のある発話が聞き手に対して果たす働きを表す。本稿では大きく聞き手へ直接働きかける場合と直接働きかけない場合に分けて考える。次に、熊田（2001）は、配慮意識の面から恩恵の与え手に対する待遇意識をドラマ・シナリオと経験談からの例を用いて調査しているが、人間関係や、働きかけの有無、行為の負担の程度を要因とし、配慮意識が低い場合には「ーてくれる」系が、配慮意識が高い場合には「ーてもらう」系の使用割合が高いと述べている。また、山田（2002:49）では、「日本語では動作主を主語におかない方が動作主に対する敬意をあらわしやすい」としたが、敬意を表す必要のない場面において両表現の選択要因についての考察が求められる。山本（2002）では、「ーテモラウ」の機能に注目し、「ーてくれる」との互換性を中心に恩恵性を示すことを本来的用法について述べ、皮肉や話し手の依頼による反転、公的な「場」を意識した例では互換性を持つと述べている。一方、互換性を持たない「ーテモラウ」の機能としては「ーさせてもらう」の例で、「恩恵の与え手がはっきりと特定できないような場合（ibid.:274）」には「ーてくれる」が用いられないと述べている。

また、両表現における習得研究に、稲熊（2004・2006）があるが、稲熊（2004）では、韓国人日本語学習者習得に注目している。本動詞の「くれる」「もらう」の使用に比べて、補助動詞の「ーてくれる」「ーてもらう」の使用の差が大きく、特に「ーてもらう」の使用頻度が低いことについて、韓国語に「ーてもらう」という用法が存在しないことを要因として挙げている。その妥当性を検証するためには、韓国語以外の言語を母語とする学習者との比較が必要であったため、稲熊（2006）では、KY コーパスから韓国語・中国語・

英語母語話者のデータと、上村コーパスから母語話者のデータを比較して調査を行った。だが、中国語と英語も韓国語と同様に「ーてもらう」の用法がなく、受身や使役の形式で使用されるため、韓国語母語話者との差を把握し難いと思われる。

以上、従来の研究で述べられたように、「ーてくれる」と「ーてもらう」が対称的な構造を持っていても、用いられる環境は異なるという指摘は、妥当な考え方であると考える。特に本稿では、運用の面においての適切性を探るため、語用論的アプローチを用いて、両表現の使用条件を明らかにする。

## 3. 研究方法および研究資料について

前章で指摘したように、「ーてくれる」「ーてもらう」の互換性について、統語論的特徴や習得研究の考察からは明らかにできなかった点を解決するため、本稿では語用論的アプローチを採用する。語用論的アプローチとは、ある言語が使用される環境を調査することから始まる。つまり、「どんな時にどのように使用されるか」を調査するが、そのためにコンテクストの把握が重要となる。

本稿で取り扱う研究資料について、「日本語学習者言語コーパス(1)」を研究資料とする。このコーパスは、日本語学習者 329 名（台湾、イギリス、ウクライナの学習者）と日本語母語話者 59 名の作文データで構成されており、同じタスクにおける作文ということで使用場面がある程度統制されている理由から選定した。作文タスクには「自己紹介」「特徴を述べる」「予定を述べる」「禁止・指示をする」「経験を述べる」「許可を求める」「助言する」「希望を述べる」のタスクと日記タスクがある。

コーパスから収集した「ーてくれる」「ーてもらう」の用例を用い、日本語母語話者による「ーてくれる」「ーてもらう」の使用条件を比較し、さらに日本語学習者の使用様相と比較する分析に通じ、学習者の習得における問題点を提示し、先行研究の知見をさらに掘り下げていきたい。

## 4. 使用条件の分析基準について

使用条件とは、どのような言語形式を用いて、どのような対人関係的機能を果たしているかを表すものである。

### 4.1. 形式上の特徴

両表現は補助動詞用法であるため、動詞述語として使用されるが、ここには大きく単文と複文における述語構造がある。単文は、述語が 1 つであるため、その述語に「ーてくれる」「ーてもらう」が含まれる。複文は述語が 2 つ以上用いるが、述語は主節と従属節にそれぞれ存在する。

分類の基本的な枠組みは寺村（1982）、国立国語研究所編（1987:154-155）[(2)]、日本語記述文法研究会編（2008）[(3)]を参考にし、再分類にしたのが表 1 である。

表 1 形式上の特徴における分類基準

| 形式上の特徴 | | 概念 |
|---|---|---|
| A.主節の述語 | A-1.叙述要素文 | 伝達要素や疑問・意志などを表す要素を含まない形で終わる形式 |
| | A-2.伝達要素文 | 終助詞「ね」やモダリティ表現と共起し、聞き手に対する伝達態度を含む形式 |
| | A-3.疑問要素文 | 質問や納得として終助詞「か」や「だろう」「でしょう」で終わる形式 |
| | A-4.要求要素文 | 命令形や「ーてくれ」で終わる形式 |
| | A-5.意志要素文 | 意志形（未然形）で終わる形式を表す |
| B.従属節の述語 | B-1.引用節 | 引用形式「と」を伴う節 |
| | B-2.名詞修飾節 | 名詞を修飾して、その名詞を詳しく述べたり、名詞の指示対象を限定したりする節 |
| | B-3.条件節 | 2 つの事態の因果関係を表す文において従属節にあたる節 |
| | B-4.様態節 | 主節の事態の仕方やあり方を述べ、主節を修飾する節 |
| | B-5.並列節 | 従属節の間が対等な関係で述べられた節 |

### 4.2. 参与者間の関係

「ーてくれる」「ーてもらう」は「X が Y にーてくれる」「Y が X にーてもらう」という基本構造で分かるように、想定できる参与者は、まず本動詞の動作主（「X」）と、受け手（「Y」）、そして両表現を発話する話し手と聞き手の存在が想定できる。しかし、話し手と聞き手は当該事態に直接関わる場合と関わらない場合がある。以下の例のように、第三者同士の事柄について話し手が話す際「ーてくれる」「ーてもらう」が使われるときもある。ここで、第三者とは話し手と聞き手以外に人物を指し、人間関係が話し手と社会的・心理的に近いと言われるいわゆるウチ・グループである場合から社会的・心理的に遠いソト・グループである場合まですべてに該当する。この第三者間の事柄についての用例を次に挙げる。

(4) 朴選手が健康管理のために病院で打ってもらった注射が原因だと指摘。

（『朝日新聞』 2015/01/27「競泳・朴泰桓、ドーピング違反か」）

上記の (4) で「注射を打つ」動作の動作主は「病院側」であり、受け手は「朴選手」である。ここでは記者である語り手と読者の聞き手は、「注射を打つ」という事柄には何ら関わりがないのだが、「ーてもらう」が使われていることがわかる。本稿ではこのような関係も考慮に入れて考察する。

動作主と受け手との関係には、話し手・聞き手・第三者という人物が関わり、表 2 のようなタイプが想定できる。両表現の表現において参与者間の関係の共通点は、共感度の制限によるものである。

表 2 「ーてくれる」「ーてもらう」における参与者間の関係

| タイプ | 本動詞の動作主(X) | 受け手(Y) | 共感度関係 |
|---|---|---|---|
| C-1. | 話し手 | 聞き手 | E(X)=1 > E(Y) |
| C-2. | 話し手 | 第三者 | E(X) > E(Y) |
| C-3. | 聞き手 | 話し手 | E(X) < E(Y) |
| C-4. | 聞き手 | 第三者 | E(X)<E(Y)/E(X)>E(Y) |
| C-5. | 第三者 | 話し手 | E(X) < E(Y) |
| C-6. | 第三者 | 聞き手 | E(X)<E(Y)/E(X)>E(Y) |
| C-7. | 第三者 a | 第三者 b | E(X)<E(Y)/E(X)>E(Y) |

「ーてくれる」は動作主（「X」）」は話し手側から遠い人物となる。その反面、「ーてもらう」は「ーてくれる」と格構造が対称的であり、話し手側から近い（もしくは同じである）人物を主格とし、受け手(「Y」)となる。したがって、両表現においては、「E(X)＜E(Y)」であるため、C-3、C-4、C-5、C-6、C-7 のタイプが想定できる。

### 4.3. 発話機能

発話機能とは、「話者がある発話を行う際に、その発話が聴者に対して果たす対人的機能を概念化したもの」（山岡、 2008a:50）である。国立国語研究所編（1987:153-158）では、聞き手の想定する類のカテゴリーとして、4 つのカテゴリーがあるが、「D.情報要求」「E.行為要求」「F.情報提供」「G.意志表示」という働きかけの種類である。「D.情報要求」「E.行為要求」は聞き手へ何らか要求する働きであり、「F.情報提供」「G.意志表示」は聞き手への働きかけが「D.情報要求」「E.行為要求」の働きより弱く、聞き手に対して求めることがない。それぞれの発話機能には下位レベルの発話機能が存在し得るが、詳細について、山岡 (2008b) の基準を参考にし、以下の表 3 のようにその概念を整理しておく。

表 3 発話機能の種類（国立国語研究所（1987）と山岡（2008b）を援用）

| 発話機能の種類 | | 概念 |
|---|---|---|
| 聞き手への要求有 | D.情報要求 | 聞き手にある事実について質問したり、確認したり何らかの情報を与えるように求める。 |
| | E.行為要求 | 聞き手がある行為を行うように仕向けることで、働きかけ性の度合いによって、代表的に命令、依頼、勧誘がある。 |
| 聞き手への要求無 | F.情報提供 | 事実内容を伝達する。 |
| | G.意志表示 | 話し手の感情や意志を表出する。 |

「D.情報要求」は次の（5）のように、ある事態が真であるかどうかを確認し、聞き手に当該情報を返事として求めている発話機能である。「E.行為要求」は聞き手にある行為を行うように働きかけるものであり、（6）のような例が代表的である。

(5)　この前、お願いしていたことなんだけど、彼に話してくれた？

(6)　ボールペン、貸してもらえる？

(7)　母がクッキーを作ってくれた。

(8)　彼らに日本文化の良さを再発見してもらおうと思っています。

（以上、筆者による作例）

一方、(7) で分かるようには話し手が真であると判断した事柄について伝える発話機能は「F.情報提供」といい、(8) のように話し手の感情や意志を表出する発話機能を「G.意志表示」と説明する。

## 5. 日本語母語話者における「ーてくれる」と「ーてもらう」の使用様相

本稿では、「ーてくれる」と「ーてもらう」の使用条件を明確にするため、形式上の特徴、参与者間の関係、そして発話機能という 3 つのステップによる分析を行った。「日本語学習者言語コーパス」における日本語母語話者のデータは、全体で 2,934 用例であり、その中で「ーてくれる」「ーてもらう」の使用は延べ語で 44 例であった。具体的には、「ーてくれる」が 30 用例、「ーてもらう」は 14 用例が出現した。

### 5.1. 形式上の特徴

日本語母語話者における両表現の形式上の特徴をまとめて比較する（出現した用例数に関するまとめは資料 1 を参照されたい）。日本語母語話者の用例を形式上の特徴から見ると、「ーてくれる」と「ーてもらう」は「A.主節の述語」「B.従属節の述語」の間で使用頻度の割合には大きな差がない。また、従属節の述語において (9) のように「ーてくれた＋名詞」というパターンで名詞修飾節としての使用が多いのに対して、(10) のように「ーてもらう」は従属節において偏りなく多様な形式での使用が見られた。

(9)　フラダンスを続けるためのサポートをしてくれた家族には感謝の気持ちでいっぱいだ。

(10)　ぜひ上映会で上映してみんなに知ってもらいたいと思います。

（「日本語学習者言語コーパス」、以下同様）

### 5.2. 参与者間の関係

タイプ C-5[第三者-話し手]における使用が、「ーてくれる」は 70.0%、「ーてもらう」は 64.8%で最も使用が多かった。次に、タイプ C-3[聞き手-話し手]における使用が「ーてくれる」では、13.35%であり、「ーてもらう」では 28.6%であった（詳細については資料 2 をご参照）。両表現において話し手本人が参与する場合がほとんどであることが分かった。これは共感度関係にある参与者間の関係で有効であり、「ーてくれる」「ーてもらう」使用において当該事態に話し手が行為の受け手として直接参与していることが一般的であると思われる。

また、「ーてくれる」には人を表す参与者以外の対象も現れたため、「c-8.動物・非情物を含む」と新しいカテゴリーを設定した。以下 (11) の用例が挙げられる。

(11)　今は話の種を提供してくれた蜂に感謝している。

### 5.3. 発話機能

日本語母語話者の「ーてくれる」「ーてもらう」の使用様相を発話機能別に分類すると、相手への要求無が、要求有のケースより多いことが分かった。「ーてくれる」の使用では、「E.行為要求」が 16.7%、「F.情報提供」が 30.0%、「G.意志表示」が 53.3%であり、「ーてもらう」の使用では「E.行為要求」が 21.4%、「F.情報提供」が 14.3%、「G.意志表示」が 64.3%であった。「D.情報要求」の用例は出現しなかった。

## 6. 日本語学習者における「ーてくれる」と「ーてもらう」の使用様相

「日本語学習者言語コーパス」における日本語学習者のデータは、全体で 12,439 用例であり、そのうち、「ーてくれる」が 77 用例、「ーてもらう」は 33 用例で合計 110 用例が出現した。本節では正用と誤用(5)についての考察に注目したい。適切性の判断により、正用と誤用に分けることができるが、文法的かつ語用論的な使い方が適切である文を正用とし、「ーてくれる」「ーてもらう」において文法的もしくは語用論的に不自然と感じる文を誤用と判断した。

### 6.1. 形式上の特徴

日本語学習者の正用として「ーてくれる」は「A-1.叙述要素文」「B-5.並列節」での使用の正用率が高い。「ーてもらう」は「A-1.叙述要素文」「A-2.伝達要素文」の形式の正用率が高いことから、習得が進んでいる項目であると言える（詳細のデータ数については資料 1 をご参照)。その要因には、参与者間の関係の不理解によるものや、形式パターンと発話機能との不理解による誤用があると思われる。

### 6.2. 参与者間の関係

日本語学習者による両表現に現れる参与者間の関係（参与者間の関係における調査結果は、資料 3 をご参照）の中、誤用として（12）と（13）のように、「C-1.話し手-聞き手」「C-2.話し手-第三者」の用例が指摘できる。

（12）＊知らない[分からない]時、先生と友達に聞いてくれます。

（13）＊結婚式で先生はスピーチを言ってもらえませんか。

### 6.3. 発話機能

日本語学習者による「ーてくれる」「ーてもらう」では「E.行為要求」「G.意志表示」の表現が全体の 8 割以上で、多用されていることが分かった。一方、日本語母語話者の用例と比べた際、「F.情報提供」の発話機能における習得の例が少ないことが言える。

## 7. 日本語母語話者と学習者の使用様相における比較分析：発話機能を軸として

日本語母語話者と日本語学習者の使用様相について比較した結果を表 4 に示す。

表4　日本語母語話者と日本語学習者による「ーてくれる」「ーてもらう」の発話機能

| 発話機能の種類 | | 「ーてくれる」用例数（%） | | 「ーてもらう」用例数（%） | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 日本語母語話者 | 日本語学習者 | 日本語母語話者 | 日本語学習者 |
| 聞き手への要求有 | D.情報要求 | 0　(0.0%) | 0　(0.0%) | 0　(0.0%) | 0　(0.0%) |
| | E.行為要求 | 5　(16.7%) | 29　(37.7%) | 3　(21.4%) | 16　(48.5%) |
| 聞き手への要求無 | F.情報提供 | 9　(30.0%) | 11　(14.3%) | 2　(14.3%) | 3　(9.1%) |
| | G.意志表示 | 16　(53.3%) | 37　(48.0%) | 9　(64.3%) | 14　(42.4%) |
| 用例合計 | | 30　(100%) | 77　(100%) | 14　(100%) | 33　(100%) |

### 7.1. 発話機能「E. 行為要求」における比較

（14）　突然の連絡ですまないけど、検討してみてくれ。

（15）　もし暇だったら、会ってくれませんか。

日本語母語話者の用例では、「行為要求」の発話機能では、形式上「A-4.要求要素文」の「ーてくれ」を用いて（14）のように聞き手に直接行為を仕向ける用例と、（15）のように「否定形＋疑問要素文」形式で、聞き手に直接働きかけている用例が見られた。これに対して「ーてもらう」では、次の（16）のように「条件節+嬉しい」の形式で聞き手へと行為を働きかけている用例が見られた。

（16）　田中さんの予定を教えてもらえたら嬉しいです。

一方、日本語学習者は「ーてくれる」の使用において「否定形＋疑問要素文」形式が固着しており、偏りがあることが指摘できる(（17）（18）)。「ーてもらう」は「否定形＋疑問要素文」形式以外に、（19）のように「ーてもらいたいと思う」形式による行為要求の発話機能を理解はしているが、「多くの人」の格表示での誤用があり、参与者間の関係の表示、つまり共感度関係の習得が必要であると思われる。

（17）　都合がよければ私と会ってくれませんか。

（18）　まだ予定の行動がないので、他のいいところを薦めてくれませんか。

（19）＊一人でも多くの人は[に]てつだってもらいたいと思います。

### 7.2. 発話機能「F. 情報提供」における比較

「F.情報提供」の発話機能では、「ーてくれる」「ーてもらう」の両表現における参与者は第三者の行為が話し手自身に向けられていることを述べる用例が多く見られた。一方、「ーてくれる」の使用において人でない対象が参与者に位置にくるケースが顕著であった点が「ーてもらう」との相違点である。

（20）　例えば農場主と一緒に出迎えてくれた2羽のターキーは、屠殺予定だったのを引き取ったらしい。

（21）　制服を着ているため脚を守ってくれそうなものがソックスしかなく、（後略）

（20）（21）のように、主語である対象が、人ではなく動物や物である。このような表現

は「ーてもらう」では言い表せない表現である。

(22)　バンドのHPから英語でメールをして日本に送ってもらいました。

(23)　メールをしたら、日本に送ってくれました。

(22)(23)のように「ーてもらう」における「情報提供」の発話機能の特徴には、叙述要素文形式で第三者の行為を伝える例が見られた。

一方、日本語学習者では、「ーてくれる」「ーてもらう」の使用において第三者の行為について説明する例が(24)(25)であるが、その相違点としては明確に現れていなかった。

(24)　授業が始まって、先生は一つ映画の内容を言ってくれた。

(25)　こ客[顧客]たちは、店員にチェックアウトしてもらう代わりに、自分で商品をレビ[レジ]に通すことで精算が済む。

### 7.3. 発話機能「G.意志表示」における比較

「G.意志表示」の発話機能において、日本語母語話者による用例(26)(27)を挙げる。

(26)　捨てようと思っていたものを意外と買ってくれてうれしかった。

(27)　目の前で美容師さん達がパフォーマンスをしてくれてとても面白かった。

「ーてくれる」の並列節に「嬉しい」「面白い」という感情表現が後節に共起し、他人の行為に対する話し手の感情を表している。

(28)　日本や日本語について改めて考え、その良さを再発見してもらおうと思っています。

(29)　私なりにアドバイスをさせてもらいます。

「ーてもらう」では、(28)のように、「ーてもらおう+引用節」形式で話し手の意志を表すパターンが見られた。また、(29)のように、「使役形+『ーてもらう』」形式で、話し手の行為への意志を伺える用例があった。

日本語学習者の用例では、「ーてくれる」「ーてもらう」の使用において、(30)(31)のように、当該事態に対する感謝「ありがとうございました」や「いい[よかった]です」の評価と共起している点が現れている点で日本語母語話者の使用と共通する。

(30)　?○○先生はご家[お宅]にさそってくれて、ありがとうございました。

(31)　東京に案内してもらって、とてもいい[よかった]です。

## 8. おわりに

本稿は授受補助動詞「ーてくれる」と「ーてもらう」の使用環境を明らかにするため、形式上の特徴、参与者間の関係、発話機能という3つのカテゴリーを用いて総合的な分析を試みた。さらに、日本語母語話者の使用様相を基に、日本語学習者の習得様相と比較分析することで、着実に目標言語である日本語の習得に導くことができると思う。発話機能による使用条件を理解することは、円滑なコミュニケーションを行うためには重要な手掛かりになる。

今後の課題として、データの性質が作文タスクを主とするものであったが、会話レベルでは、複雑なパターンが想定できると思われる。また、敬体である「ーてくださる」と「ーていただく」についても分析を拡大させ、様々な発話場面からの用例を分析し、精緻化さ

せていきたい。

## 注

(1) 「日本語学習者言語コーパス」の規模は約 53 万字以上（公式ホームによる）収録されている。

(2) 「叙述要素文」は「伝達要素や疑問・意志などを表す要素を含まない形で終わる」（国立国語研究所編、1987:154）形式であり、「伝達要素文」は終助詞「ね」やモダリティ表現と共起し、聞き手に対する伝達態度を含む形式、「疑問要素文」は質問や納得として終助詞「か」や「だろう」「でしょう」で終わる形式、「要求要素文」は命令形や「ーてくれ」で終わる形式、「意志要素文」は意志形で終わる形式を表す（国立国語研究所編、1987）。

(3) 日本語記述文法研究会編（2008）では、引用節、名詞修飾節、条件節等がある。それ以外には「ーとき」の形式をもつ時間節などもあるが、本稿の分析結果では出現しなかったため省略する。

(4) 「D.情報要求」の用例が出現しなかった点について、その要因に本稿で取り扱ったのが作文データであったためであると推測できる。「D.情報要求」は聞き手にある事態の真偽を確認するものであるが、そのためには過去聞き手との接点があり、既知情報の共有というのが必要であると思われる。

(5) 正用と誤用の判断は、日本語母語話者 2 名に判断してもらった。2 名の意見をまとめ、例文が不自然に感じられるときは「＊」を、やや不自然に感じられるという場合には「？」を付した。また、「ーてくれる」「ーてもらう」に関する誤用のみ対象とし、その他の誤用要因については本稿では取り扱わない。[　]の中は文の理解を助けるため筆者が付けたものである。

## 参考文献


稲熊美保 (2004)「韓国人日本語学習者の授受表現の習得について－『もらう』系と『くれる』系を中心に－」『国際開発研究フォーラム』26:13-26 名古屋大学

_____ (2006)「韓国人日本語学習者による『くれる』系および『もらう』系授受補助動詞の算出－ACTFL-OPI 形式によるインタビューコーパスの分析－」『愛知文教大学比較文化研究』8:37-46 愛知文教大学

久野暲 (1987)『談話の文法』 第 6 版[初版 1978] 大修館書店

熊田道子 (2001)「待遇意識からみた『～てくれる』系表現と『～てもらう』系表現－恩恵の与え手が恩恵行為を行うことに対する配慮意識を中心に－」『国語学研究と資料』24:15-28 国語学研究と資料の会

国立国語研究所 編 (1987)「Ⅱ発話機能の部」『日本語教育 映画基礎編 総合文型表』日本シネセル

寺村秀夫 (1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版

_____ (1990)『外国人学習者の日本語誤用例集』 大阪大学（国立国語研究所、2011 年）

日本語記述文法研究会 編 (2008)『現代日本語文法⑥第 11 部複文』くろしお出版

堀口純子 (1987)「『ーテクレル』『ーテモラウ』の互換性とムード的意味」『日本語学』6-4:59-

72 明治書院
山岡政紀 (2008a)「発話機能論の歴史」『日本語日本文学』18:49-64 創価大学日本語日本文学会
_____ (2008b)『発話機能論』くろしお出版
山田敏弘 (2002)「『もらう』と『くれる』はどうちがう？」『日本語学』21-1:49 明治書院
山本裕子 (2002)「『ーテモラウ』の機能についてー『ーテクレル』と対比してー」『名古屋女子大学紀要 人文・社会編』48:263-276 名古屋女子大学
「日本語学習者言語コーパス」(東京外国語大学)
http://cblle.tufs.ac.jp/llc/ja/index.php?menulang=ja (2014 年 11 月ー2015 年 1 月)
『朝日新聞』2015/01/27

## 参考資料

資料 1 日本語母語話者と日本語学習者による「ーてくれる」「ーてもらう」の形式上の特徴

| 形式上の特徴 | | 「ーてくれる」用例数（%） | | | 「ーてもらう」用例数（%） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 母語話者 | 学習者正用 | 学習者誤用 | 母語話者 | 学習者正用 | 学習者誤用 |
| A 主節の述語 | A-1.叙述要素文 | 6(20.0%) | 28(49.1%) | 4(19.0%) | 2(14.3%) | 5(26.3%) | 3(21.6%) |
| | A-2.伝達要素文 | 0(0.0%) | 4(7.0%) | 1(4.8%) | 0(0.0%) | 5(26.3%) | 1(7.1%) |
| | A-3.疑問要素文 | 1(3.3%) | 10(17.5%) | 5(23.8%) | 0(0.0%) | 3(15.8%) | 2(14.3%) |
| | A-4.要求要素文 | 2(6.7%) | 0(0.0%) | 1(4.8%) | 1(7.1%) | 0(0.0%) | 2(14.3%) |
| | A-5.意志要素文 | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 1(7.1%) | 0(0.0%) | 2(14.3%) |
| 「A.主節の述語」の小計 | | 9 (30.0%) | 42 (73.7%) | 11 (52.4%) | 4 (28.55) | 13 (68.4%) | 10 (71.6%) |
| B 従属節の述語 | B-1.引用節 | 5(16.7%) | 3(5.3%) | 1(4.8%) | 3(21.5%) | 0(0.0%) | 1(7.1%) |
| | B-2.名詞修飾節 | 10(33.3%) | 2(3.5%) | 2(9.5%) | 2(14.3%) | 2(10.5%) | 1(7.1%) |
| | B-3.条件節 | 3(10.0%) | 3(5.3%) | 5(23.8%) | 2(14.3%) | 3(15.8%) | 1(7.1%) |
| | B-4.様態節 | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 2(14.3%) | 1(5.3%) | 0(0.0%) |
| | B-5.並列節 | 3(10.0%) | 7(12.3%) | 2(9.5%) | 1(7.1%) | 0(0.0%) | 1(7.1%) |
| 「B.従属節の述語」の小計 | | 21 (70.0%) | 15 (26.3%) | 10 (47.6%) | 10 (71.5%) | 6 (31.6%) | 4 (28.4%) |
| 用例合計 | | 30 (100%) | 57 (100%) | 21 (100%) | 14 (100%) | 19 (100%) | 14 (100%) |

資料 2 日本語母語話者における「〜てくれる」「〜てもらう」の参与者間の関係

| タイプ | 本動詞の動作主(X) | 受け手(Y) | 「〜てくれる」用例数 | | 「〜てもらう」用例数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| C-1. | 話し手 | 聞き手 | 0 | (0.0%) | 0 | (0.0%) |
| C-2. | 話し手 | 第三者 | 0 | (0.0%) | 0 | (0.0%) |
| C-3. | 聞き手 | 話し手 | 4 | (13.35%) | 4 | (28.6%) |
| C-4. | 聞き手 | 第三者 | 0 | (0.0%) | 0 | (0.0%) |
| C-5. | 第三者 | 話し手 | 21 | (70.0%) | 9 | (64.3%) |
| C-6. | 第三者 | 聞き手 | 0 | (0.0%) | 1 | (7.1%) |
| C-7. | 第三者 a | 第三者 b | 1 | (3.3%) | 0 | (0.0%) |
| C-8. | 動物・非情物を含む | | 4 | (13.35%) | 0 | (0.0%) |
| 日本語母語話者の用例数 | | | 30 | (100%) | 77 | (100%) |

資料 3 日本語学習者における「〜てくれる」「〜てもらう」の参与者間の関係

| タイプ | 本動詞の動作主(X) | 受け手(Y) | 「〜てくれる」用例数 | | 「〜てもらう」用例数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| C-1. | 話し手 | 聞き手 | 3 | (3.9%) | 1 | (3.0%) |
| C-2. | 話し手 | 第三者 | 1 | (1.3%) | 3 | (9.1%) |
| C-3. | 聞き手 | 話し手 | 32 | (41.6%) | 15 | (45.4%) |
| C-4. | 聞き手 | 第三者 | 0 | (0.0%) | 0 | (0.0%) |
| C-5. | 第三者 | 話し手 | 37 | (48.0%) | 10 | (30.3%) |
| C-6. | 第三者 | 聞き手 | 0 | (0.0%) | 0 | (0.0%) |
| C-7. | 第三者 a | 第三者 b | 0 | (0.0%) | 2 | (6.1%) |
| C-8. | 動物・非情物を含む | | 4 | (5.2%) | 2 | (6.1%) |
| 日本語学習者の用例数 | | | 77 | (100%) | 33 | (100%) |

（朱炫姝・じゅひょんじゅ、筑波大学大学院生、murasakiju@gmail.com）